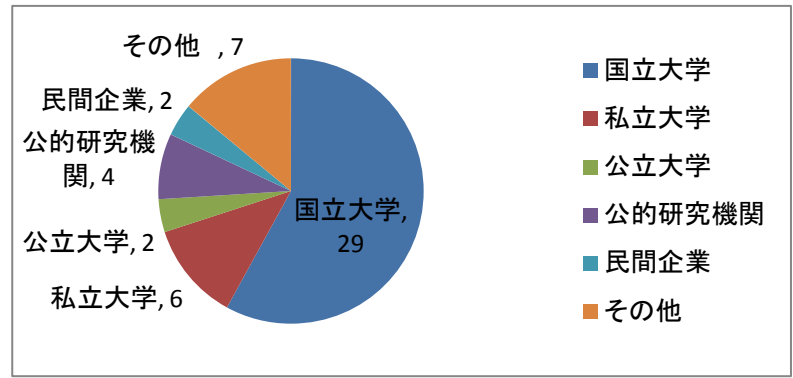


第2回九州工業大学URAシンポジウムアンケート集計結果

2013.12.16開催／参加者数:84 回収数:50

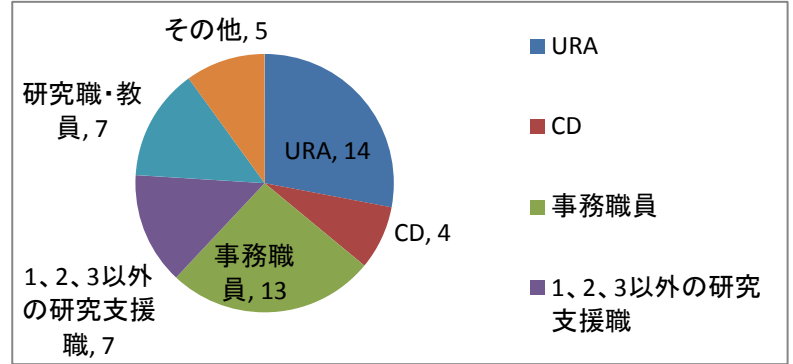
F1 あなたの所属機関を教えてください。

1	国立大学	29
2	私立大学	6
3	公立大学	2
4	公的研究機関	4
5	民間企業	2
6	その他	7



F2 あなたの職業について教えてください。

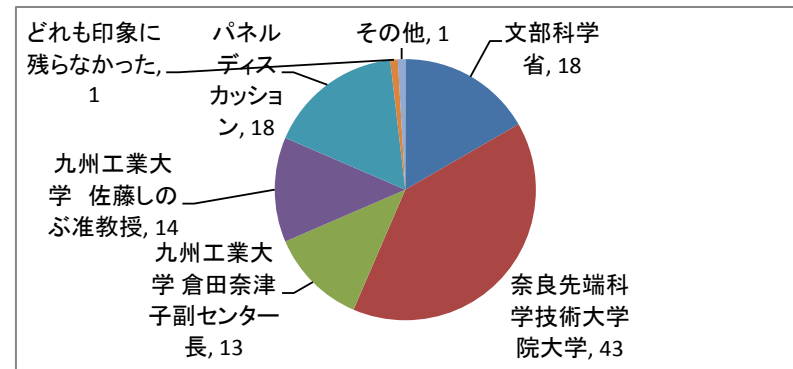
1	URA	14
2	CD	4
3	事務職員	13
4	1、2、3以外の研究支援職	7
5	研究職・教員	7
6	その他	5



I 本日のシンポジウムで印象に残ったものを教えてください。

1	文部科学省	18
2	奈良先端科学技術大学院大学	43
3	九州工業大学 倉田奈津子副センター長	13
4	九州工業大学 佐藤しのぶ准教授	14
5	パネルディスカッション	18
6	どれも印象に残らなかった	1
7	その他	1

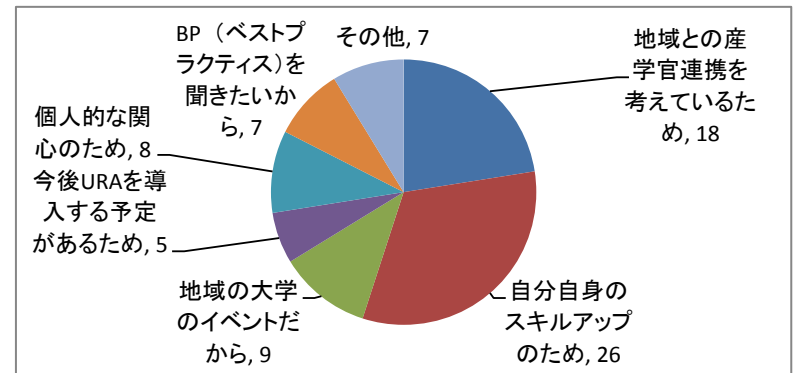
その他: 神谷所長のプレゼン



II-① 本日の参加目的を教えてください。

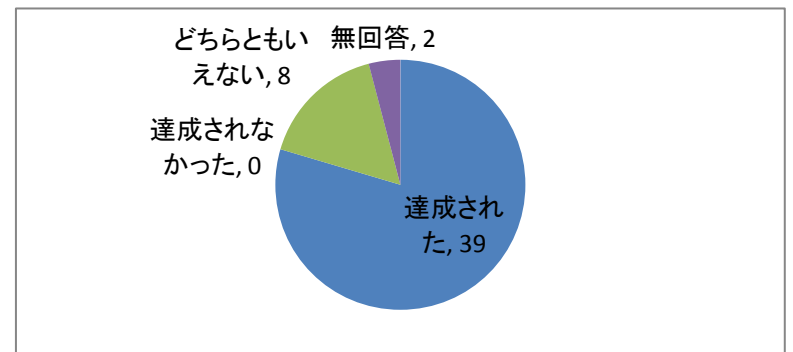
1	地域との産学官連携を考えているため	18
2	自分自身のスキルアップのため	26
3	地域の大学のイベントだから	9
4	今後URAを導入する予定があるため	5
5	個人的な関心のため	8
6	BP(ベストプラクティス)を聞きたいから	7
7	その他	7

その他: シンポジウム開催に向けて、参考とするため  
 URA体制を検討するため  
 URAの他大学での現状の把握  
 URAの他大学での現状の把握業務として情報収集のため  
 他大学のURA活動を知り、参考にするため  
 URAの組織づくり、ミッション定義の参考にするため  
 URAの活動、位置づけ、文科省の考え方を知らなかった



II-② 参加目的は達成されましたか？

1	達成された	39
2	達成されなかった	0
3	どちらともいえない	8
99	無回答	2



## II-③ 今後取り上げてほしい内容

規制対策のためのマネジメント、利益相反/URAの位置づけ「各大学の事情に応じて」で済まされる問題でもないと思います
重点研究センターの支援に関して、支援されるセンターの観点から、1つのセンターについてだけでなく、URAの観点から、複数のセンターの支援について紹介して欲しい
地域における人財育成
URAの成果・成功事例
大学等の実務担当者の参加者が多いが、URAを目指す若手に参加してもらえるような内容を取り上げて欲しい
現在、URA組織の活動で困っていること、みんなで話し合う機会を作ってほしい
将来必要とされる技術、産業、社会システム等を見極める力を養うきっかけとなるようなシンポジウム
URAの成果・成功事例具体的な活動や支援内容について取り上げていただきたいと考えています
大学でのBP事例を当事者の方のご経験談としてお聞きしたいです
ケーススタディー
URA側からのイノベーションの成功事例(イノベーションモデル)の紹介
話題提供いただいた紹介事例のその後の経過等を継続的に取り上げていただければとよいかと思えます。
産学官連携における、他大学での取り組み事例について(総合大学、単科大学、地方大学等、各大学において取り組みが違うと思うので)
URAの育成について
教員、事務職員からのURAへの期待
①研究支援は資金の獲得だけではないと思いますが、それ以外にURAのできることは何でしょうか。②文系研究者(助成金が少ないと思います)に対する支援③学内他の部署との連携についてもっと詳しく
URAとCDが並列で在籍している組織の事例紹介
奈良先端の講演で紹介されていた企業との合宿などは興味深いと思いました。
海外の産学官の(成功)事例紹介等
事例紹介を成功、失敗に関係なくシェアしてください
PJ資金獲得までの話より、獲得後、成果を出すことにフォーカスした話

## III 自由回答(お気づきの点、印象に残った点等)

URAはしばしば研究職や教職とは区別されるように努められるのですが、一方で事務職員と混同されることに抵抗ない方々が大変多い現状もあると思います。これは当たり前なのかもしれませんが、せっかく「第三の職」として創設されたものですので、貴学のように「URA」教授や「URA助教」とした方がしっくりくるように感じました。(もちろんそれだけの資質があるからですが個人的見解ですが、これくらいしないと内部ではなかなかやりにくいようにも思います。
盛りだくさんで時間が長かった
URA担当となることは、頼られる存在ということは理解しているが、職分として明確にすること(定義すること)は一義的には難しいと感じた
マイクの音がこもっているので聞こえにくい
集計結果が出たらメール等でお知らせいただければ幸いです
横井室長の基調講演が、内容のボリュームに対して講演時間が短かったように感じました。もう少し、お話を聞きたかったので、文部省関係者については、資料のボリュームを考慮の上、時間を決めてほしいと思います(とても難しいですね)
幣学が研究推進に力点を置いてURA事業を整備している一方で、産官学連携に係る業務が増えていることから、貴学の産学連携の取り組みとURA組織の関わり方について大変参考になるお話をしていただけました。和泉センター長より、おせっかい焼きになるというご発言がありましたが、研究支援・産学連携の試行に限らず、意識的なコミュニケーションがネットワークの形成に向けて主体的に動いていくということがアプローチの一つとして重要である、という示唆を頂けたように思います。
貴重なお話を拝聴いただき、光栄に思います。本学においても、今後の産学連携、URA活動について参考にさせていただきます。
会場が寒かったです。
対話型WSはキーワードだったように思います。
MEXTのプレゼンテーションはpptの内容が多すぎる。テーマを絞ったほうが良いと思う。

以上